

学校開校 準備委員会 NEWS No.20

令和4年11月 榎尾中学校区学校開校準備委員会

通学バス検討部会のご報告

令和4年11月9日（水）学校開校準備委員会の通学バス検討部会を開催しました。

今回は、これまでの意見交換の内容も参考に「通学バス」の基本的な方向性について、教育委員会事務局から案を説明し、意見交換を行いました。

- ◎主な内容 →地元児童（小学生）については、専用スクールバス（一部デマンド方式）による通学
→特認生については、児童生徒ともに専用スクールバスによる通学を可能に

1. 横山校区内の運行

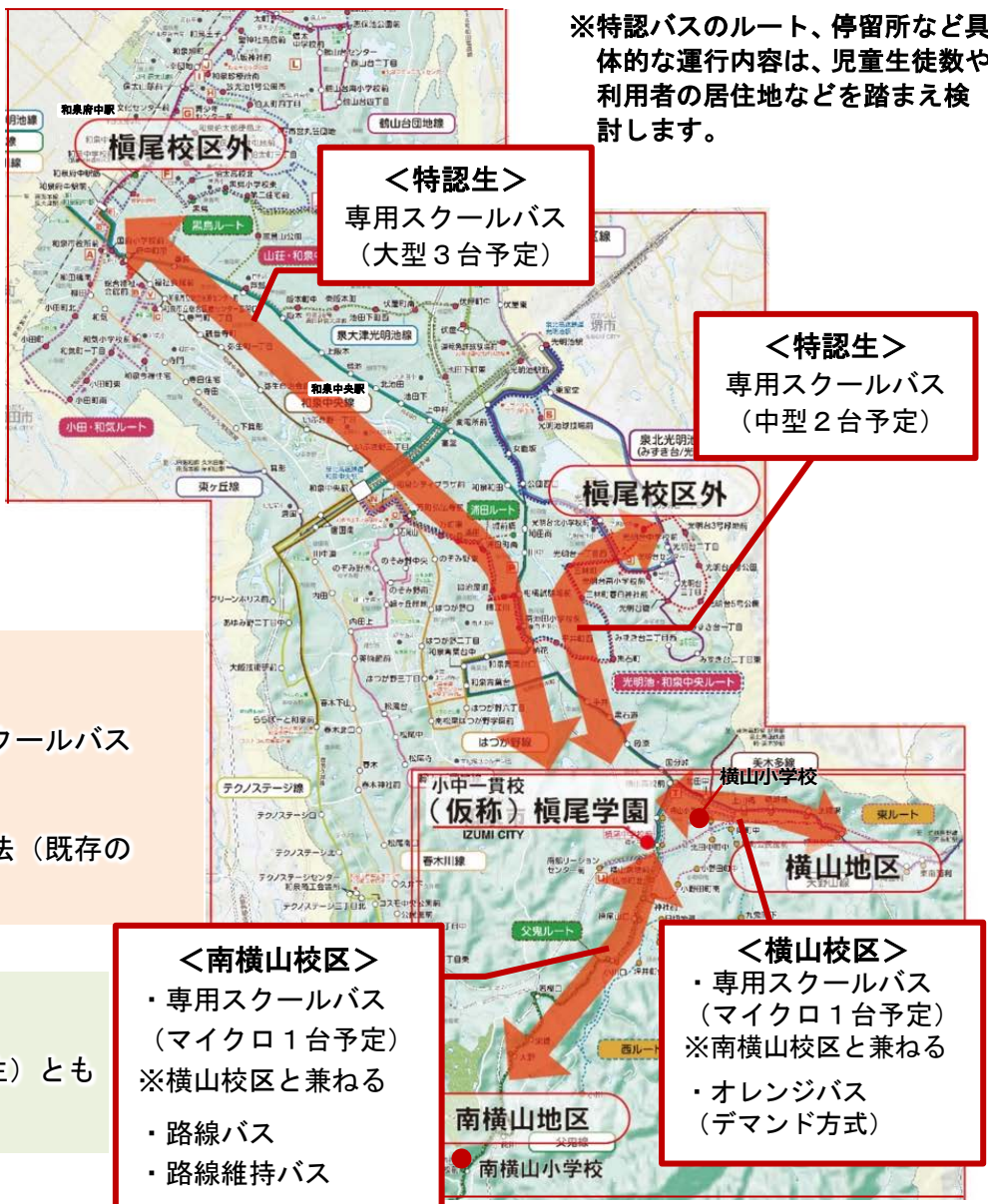
- 学校までの通学距離が2km以上の地域となる児童（1～6年生）の通学は専用スクールバス（マイクロバス）1台で支援
- 坪井町や九鬼町など、一部2km以上の地域の児童は、既存の公共交通オレンジバス（デマンド方式）を活用
- 生徒（7～9年生）は現在の通学方法（徒歩・自転車）

2. 南横山校区の運行

- 児童（1～6年生）の通学は専用スクールバス（マイクロバス）1台で支援
- 生徒（7～9年生）は現在の通学方法（既存の公共交通・自転車）

3. 特認バスの運行

- 児童（1～6年生）、生徒（7～9年生）ともに専用スクールバスが利用可能に



基本的な方向性についての説明後、運行ルートや発着時刻、停留所、便数などの運用面について意見交換を行いました。（主な意見は裏面）

主な意見など

■方向性については、今回十分な内容を示してもらったので、今後はどんな運用をしていくのか話していけばよい。

■南松尾はつが野学園の登下校で運用されている通学バスと同程度の便数としてほしい。加えて、事前にバス会社と調整することで運行時間の変更ができていするなど同様の工夫をしてほしい。

■特に中学生が下校するタイミングと路線バスの時間が合うよう調整してほしい。加えて例えば中学生もスクールバスに乗れるようにする等、工夫してほしい。

■和泉府中方面は大型バスを3台予定とあるが、例えば同じ時間に集中させるのか、または、時間をずらして走らせるのか。

■ルートや停留所から離れていると家庭で送迎したり、入学させるのをあきらめたりすることになるので停留所をどこに設定するかが重要。

→最大の利用人数を想定して大型3台としており、実際の人数により台数は変わります。ルートや時間帯は利用者の数や居住地などをもとに調整することとなります。

■横山校区と南横山校区のスクールバスは1台となっているが、発着時刻やルートなど、具体的にはどうするのか。

■校区内児童（小学生）のスクールバスの出発は横山校区からか南横山校区からか。

→具体的な運行内容は今後検討していきます。

■対象の地域に子どもが少なく、デマンドは利用されない可能性もあるのでは。

■坪井町の2キロ以上の場所はどこになるのか。

→通学するルートを測り個別に指定する予定をしています。

■徒歩通学の児童は、例えば急に雨などが降りだした場合、帰りにデマンドは利用可能か。

■急にデマンドを利用する子どもが多数出た場合の対応は。

→デマンド利用対象地域外の横山校区の児童も、予約と、自費による料金負担が必要ですが、利用可能です。

■登下校で利用するスクールバスは、日中校内にとどまるのか。

→バス運行事業者の車庫からの発着となるため、日中校内に駐車していません。

■（仮称）槇尾学園が開校すれば、車での送迎も増えると思うが、バスと乗降場所は別か。

→今後、検討を予定しています。

■置き去りなどがないように、バス会社が複数にまたがる場合の安全面での取り決めは確実に行ってほしい。

■特に学年初めの時期の低学年の児童について、寝てしまって、降車を忘れるなどトラブルが想定される。入学までや学期が始まるまでにバス利用にあたって練習の期間がほしい。

■想定される低学年の車内トラブルには、しっかり未然防止の対応をすすめてほしい。

→安全を第一に考え、運用や安全対策など検討していきます。

運用面の内容について、特に「安全」、「利便性」に関するご意見が多く挙げられました。
安全な通学体制の整備・調整に向け、通学バス検討部会は今後も適宜開催していくこととしています。

ニュースレターをメール配信中！

このニュースレターの受取りを希望される方は、右記 QR コードを読み取っていただき、氏名、「ニュースレター希望」と記載のうえ、メールを送信してください。



【お問合せ】

教育・こども部 教育総務課 〒594-8501 和泉市府中町 2-7-5 (TEL)0725-99-8196 (E-mail) m-junbi-iinkai@city.osaka-izumi.lg.jp